周産期母子医療センター　宮坂 尚幸 センター長

●専 門 医：産婦人科専門医、指導医、母体保護指定医
●専門領域：女性医学、周産期医学、生殖医学、婦人科腫瘍学

Q1 周産期母子医療センターの役割は？

宮坂先生　東京医科歯科大学病院周産期母子医療センターは、平成27年に東京都に認定された地域周産期母子医療センターです。総合病院の強みを生かし、様々な基礎疾患（持病）をお持ちの方のハイリスクな妊娠から、特にリスクのない方の正常妊娠まで幅広く対応しております。希望者には産科麻酔医による24時間対応の無痛分娩を実施しており、また新生児集中治療室（NICU）6床と回復治療室（GCU）6床を有し、早く生まれた赤ちゃん、小さく産まれた赤ちゃん、疾病をもって生まれた赤ちゃんの治療も可能です。

特徴1　プレコンセプションケア外来

トラブルなく10カ月の妊娠期間を過ごし、元気な赤ちゃんが生まれてくるためには、妊娠前から心身の状態を整えることが大切です。特に慢性疾患や持病のために長期的に加療中の女性の場合、自分が妊娠しても大丈夫なのか、元気な赤ちゃんが生まれるのだろうか、妊娠したらどんなことに気を付けたらよいのだろうか、と不安に思うことがあると思います。当院ではこの様な妊娠前の女性を対象として、相談に乗ったりアドバイスしたりするためのプレ（前）コンセプション（妊娠）外来を開設しております。ご希望の方は現在通院中の担当医の先生と相談の上、お気軽に受診してください。

特徴2　セミオープンシステム

大学病院では多くのハイリスク妊娠を取り扱っているために、妊婦健診の際にどうしても待ち時間が長くなりやすく、通院しやすい時間帯、曜日の予約がとりにくいなどのご不便をおかけすることがあります。そこで、リスクの低い妊婦さんがご希望された場合には、妊娠初期に当院を受診し分娩予約をしていただいた後、通院に便利なご近所のクリニックで妊婦健診をしていただき、妊娠末期になってから当院にお戻りいただくセミオープンシステムがご利用可能です。

特徴3　周産期メンタルヘルス外来

妊娠出産は短期間のうちに女性の身体、生活環境、人間関係に大きな変化をもたらすため、ただでさえ心の不調が起きやすい時期であります。また女性の社会進出が進んでいる一方で、現在はストレス社会であり、妊娠前から色々な心の不調を経験したことのある妊婦さんもいらっしゃいます。そのような妊婦さんが安心して出産し子育てができるように、周産期メンタルヘルスに特化した外来を開設しております。

特徴4　診療科間連携による集学的な周産期管理

総合病院の特徴を生かし、基礎疾患を有する合併症妊娠について、豊富な診療経験を蓄積しており、より良い周産期管理のために日々研究をしております。具体的には脳神経疾患（もやもや病、てんかんなど）、膠原病（自己免疫疾患、高安病など）、血液疾患、消化器疾患（炎症性腸疾患など）、精神疾患、婦人科疾患（子宮筋腫、卵巣腫瘍など）、内分泌代謝疾患（糖尿病、甲状腺疾患、脂質異常症など）などです。また、緊急事態が発生した時に迅速に対応し母児を救命するためのシステムも確立しております。

特徴5　母子支援システム

女性の社会進出、社会構造の変化（核家族化）などにより、子育て支援が必要な方が増えています。子供が生まれてから慌てることが無い様に、助産師、医療ソーシャルワーカーと協働し、妊娠中から個々の妊婦さんに役立つ社会資源等の情報を提供しております。また、育児中の悩みを解決するための「すくすく外来」も開設しております。

Q2 今後の抱負は？

宮坂先生　妊娠出産は人生で最も喜ばしい奇跡の瞬間ですが、一方で母児が最も命の危険にさらされる瞬間でもあります。下にあるのは生まれて数日の私自身の写真ですが、難産の末、鉗子分娩（頭を器械ではさんで引っ張り出す分娩）によって仮死状態で生まれて、頭の形が歪んでいるのが分かると思います。それでも何とか今まで無事に生きてこられて、両親に対しては感謝の念に堪えません。一人でも多くの方が、この奇跡の歓びを体験できるように、スタッフ一同全力を尽くしたいと思っております。

Q3 患者さんへのメッセージは？

宮坂先生　ご存知のように日本は少子化に歯止めがかからず、人口は減少し始め、超高齢社会を迎えております。政府は異次元の少子化対策として様々な施策を開始し、こどもがまんなかの社会を実現するためのこども家庭庁が設置されました。当院ではリプロダクションセンターを開設しており、不妊治療から妊娠出産、さらには育児まで、途切れることのない治療、支援を提供しております。

妊娠している方も、これから妊娠を考えている方も、是非当院を受診してください。

東京医科歯科大学病院 広報誌「オアシス」19号（令和6年7月）
発行　東京医科歯科大学病院　〒113-8519　東京都文京区湯島1-5-45　東京医科歯科大学病院総務課
デザイン・SOYA　編集・宇山恵子　撮影・田山達之
オアシスについてのご意見・ご感想はpr-hosp.adm@tmd.ac.jpまでご連絡ください。
本書の無断複写（コピー）は著作権法上での例外を除き、禁じられています。

TMDU 東京医科歯科大学
広報誌「オアシス」第19号
No.19
2024年7月

東京医科歯科大学病院 オアシス

基本理念

東京医科歯科大学病院の理念と基本方針

理念

世界最高水準のトータル・ヘルスケアを提供し、人々の幸福に貢献する

基本方針

1. 患者中心の良質な全人的医療の提供
2. 人間性豊かな医療人の育成
3. 高度先進医療の開発と実践
4. 人々の信頼に応える社会に開かれた病院

病院長のごあいさつ

藤井 靖久（ふじい・やすひさ）
東京医科歯科大学病院　病院長

いつも東京医科歯科大学病院をご利用いただき、ありがとうございます。オアシス19号では、新任の診療部長・科長、センター長を紹介しております。新しいリーダーとしての抱負や診療に対する熱い思いをお読みいただければ幸いです。

当院は本年10月の大学統合に伴い、「東京科学大学病院、Institute of Science Tokyo Hospital（略称は科学大病院、Science Tokyo Hospital）」となります。

現在の東京医科歯科大学病院の理念と基本方針は、表紙に記載されております。これらは2021 年10 月に病院が一体化する際に、医学部附属病院と歯学部附属病院からのメンバーが議論を尽くして決定しました。私は、医師として、研究者として、科長として、そして病院長として、物事を判断する際、この理念と基本方針に合致しているかを基準にしています。

10月にスタートする東京科学大学病院の理念は、「世界最高水準のトータル・ヘルスケアを提供し、人々の幸せに貢献する」で、基本方針は、1.患者中心の安全、良質な全人的医療を提供する、2.人間性豊かな医療人を育成する、3.高度先進医療を開発、実践する、4.社会に開かれた病院として、人々の信頼に応える、5.力を合わせて患者さんと仲間たちを守る、の5つとなります。

当院は2020年からの新型コロナウイルス感染症に積極的に対応し、困難な局面に対しても田中雄二郎学長の「力を合わせて患者さんと仲間たちをコロナから守る」というメッセージの下で、職員全員が一致団結し、大きな力を発揮しました。10月以降、たくさんの新しい仲間が1つになることで生まれるさらに大きな力を活かして、患者さんのトータル・ヘルスケアと幸せに貢献していきたいと思います。新病院になるにあたり、患者さんにご迷惑をおかけしないよう、細心の注意を払って準備を進めていますので、今後ともよろしくお願いします。

Science Tokyoのロゴマークが 誕生！

東京医科歯科大学と東京工業大学の統合により
2024年10月1日に設立される、東京科学大学の理念とロゴマークが誕生しました。

Institute of
SCIENCE TOKYO

シンボルマーク

上下の2本のアーチは、Science Tokyoの存在意義である「科学の進歩」と「人々の幸せ」の探求、そして歴史ある2つの大学の歩みを表し、中央のアーチはその2つをしっかりと結びつけています。右上に向けてダイナミックに展開していく全体の形には、知と技術を融合する探求心や社会を巻き込み共創する姿勢を表しています。

ロゴタイプ

新大学がグローバルに進展するよう、国内外共通で英語大学名称の Institute of Science Tokyo をロゴタイプとしています。視認性に優れ、洗練された印象を持つ字体を使用しています。

東京科学大学 (Science Tokyo)を象徴するロゴマークは、シンボルマークとロゴタイプを組み合わせて使用します。

新任診療科長・部長・センター長メッセージ

新たに着任した診療科長・部長・センター長からの患者さんへのメッセージです。

長寿・健康人生推進センター　宮﨑 泰成 センター長

●専 門 医：日本内科学会　指導医、総合内科専門医、日本呼吸器学会　指導医、専門医、ICD認定医、日本呼吸器内視鏡学会　指導医、専門医、日本医師会認定産業医

Q1 長寿・健康人生推進センターの役割は？

宮﨑先生　当センターは、高度・先端医療を担う東京医科歯科大学病院がベースとなって、病気の予防と健康維持をトータルにサポートするために設置された施設で、大学病院ならではの豊富な先端的健診メニューを組み合わせて、個人ごとに最適な検診プログラムを提供します。さらに、健康管理ゲノム情報や検診結果に基づき、医師と専門スタッフが重大疾患のリスク予測から生活習慣指導までを徹底サポートします。

Q2 今後の抱負は？

宮﨑先生　健康寿命をのばすには人生（皆様の生活）にわたってケアをする必要があります。人生100年時代に向けて皆様の健康を守るために、本学病院（医科・歯科）スタッフと共に予防医療、個別化先制医療を行ってまいります。もし検査結果に異常が見つかれば、院内の専門診療科をご紹介し、さらに詳しい検査や疾患の治療を提供します。

Q3 患者さんへのメッセージは？

宮﨑先生　当センターは会員制となっており、登録していただいた会員様には、東京医科歯科大学が一丸となって診療を提供させていただきます。ご入会に際してはホームページをご覧ください。https://www.tmd.ac.jp/medhospital/chouju

先端歯科診療センター　金澤 学 センター長

●専 門 医：補綴歯科専門医、補綴歯科指導医、日本老年歯科医学会認定医
●専門領域：高齢者歯科学、補綴し科学、口腔インプラント学

Q1 先端歯科診療センターの役割は？

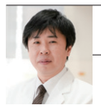
金澤先生　先端歯科診療センターでは、歯科医師は教授、准教授、講師、専門医と、その分野のスペシャリストが治療を担当します。また、健康保険にとらわれない最高の治療を提供しています。私は歯科補綴（被せ物や入れ歯）を専門としていますが、先進的な治療として入れ歯とインプラントを組み合わせたインプラント義歯による治療も行っています。このインプラント義歯は、一般的な入れ歯と比べてより生活の質を上げ、インプラントによる固定性のブリッジよりも費用対効果に優れることが科学的に証明されてきています。ぜひ先端歯科診療センターでご相談ください。

Q2 今後の抱負は？

金澤先生　歯科系におけるフラッグシップとして、患者さんにはこれまでにない治療体験をしていきます。世界最高の治療を提供し、患者さんの口腔の健康から全身の健康に寄与できるセンターとしていきたいと思っています。

Q3 患者さんへのメッセージは？

金澤先生　治療チェアはパーテーションを備えた半個室になっており、患者さんのプライバシーを守るとともに、エアロゾルの飛散を防ぐ感染対策の一助にもなっております。各分野のスペシャリストが患者さん一人一人に向き合って、最高の治療を提供しています．他の専門外来よりも、初診の予約も早く取れるようになっていますので、多くの皆様の受診をお待ちしております。



災害危機管理部　植木 穣 部長

●専 門 医：救急科専門医
●専門領域：救急医療、災害医療、危機管理

Q1 災害危機管理部の役割は？

植木先生　2024年４月１日より『災害危機管理部』の部長を務めさせていただいております植木穣と申します。前身の『災害テロ対策室』の時代から一貫して、首都東京の中心部に位置する災害拠点病院として、医療の需要の最も高まる災害発生時に、いかにして当院の高度な医療の提供を継続し、地域に貢献するという役割を全うできるかを念頭に活動しております。当院の災害対応能力強化に努めることに留まらず、地域の様々な方々とノウハウを共有し、協力体制を構築し、地域全体の防災能力の向上も図っていきたいと考えております。

Q2 今後の抱負は？

植木先生　私が災害医療に携わるようになって約14年になります。この間、東日本大震災に始まり、能登半島地震に至るまで様々な被災地で経験を積ませていただき、新型コロナウイルス対応など様々な場面で災害対応のノウハウを実践に生かしてまいりました。今回の災害危機管理部の創設はその一つの結実した形だと考えております。ただ、ここに至るまでに多くの方に支えられてきたことを決して忘れてはならないと考えております。私に「災害対策のいろは」を１から教えてくださり、温かい目で辛抱強く見守ってくださった諸先輩方、私の実力不足のため、なかなか成果が出ない時代から手伝ってくれた仲間たち、有事の際に突如として、長期間に渡り家を空けてしまう私の仕事に理解を示し、応援してくれている家族・親族、そういった多くの方々に対して、どうやったら恩返ししていけるのか、それも今の私の大きなモチベーションとなっております。

Q3 患者さんへのメッセージは？

植木先生　災害はいつ襲いかかってくるか分かりません。ただ、このいつ来るか分からないという認識が、危機感をぼやけさせ、ある種の油断となり、忙しい日々の中で対策が後回しにされてしまう原因となっております。しかし、皆さんはつい先日、能登半島地震があったことを知っています。災害は決して他人事ではないのです。「まさか自分がそんな目に遭うとは思ってもみなかった」という事態になってからでは遅いのです。不幸にして、災害に遭遇したとき、皆様にとって医療が必要になる場面が多くあるはずです。そのようなときに、我々は皆様の期待に応えたいと考えています。先人たちの教えをしっかりと継承しつつも、古い枠組みや体制にこだわることなく、新しい発想や技術も積極的に取り入れながら、皆様と共に備えていきたいと考えております。今後も皆様のご理解、ご協力のほど宜しくお願いいたします。

腎臓内科　蘇原 映誠 科長

●専 門 医：日本内科学会総合内科専門医、日本腎臓学会専門医・指導医、日本透析医学会専門医・指導医
●専門領域：内科、腎臓内科、透析医療、遺伝性腎疾患、高血圧など

Q1 腎臓内科の役割は？

蘇原先生　東京医科歯科大学病院腎臓内科は日本で最初に透析療法を開始した機関の一つであり、腎臓病全般に対する十分な臨床経験を持ち、信頼される医療の提供を行っております。蛋白尿・血尿から腎不全における透析療法に至るまで、すべての段階と症状の腎臓病全般の診断・治療を行います。患者さんとコミュニケーションを充分にとり、一人一人の患者さんにとって最も適した治療を行っていくことを目指しております。

我々の診療対象は難病や重症の患者さんだけではありません。高血圧や糖尿病などの慢性腎臓病につながる一般的な疾患の診療、腎臓専門医の早期介入や、栄養指導・糖尿病透析予防指導・他科併診などの幅広い診療を行います。これらを集学的に行う「透析先延ばし入院」を年間約60件行っていますが、実際に透析までの期間を延長する効果を得られており、その有効性が確認されております。

同時に、我々の強みとして、成人腎臓内科分野においては我々のみが有する先端的な遺伝性腎疾患の網羅的遺伝子解析があり、今まで1400家系以上の解析を行い、診断につなげてまいりました。最近、慢性腎臓病の10%程度が、実は遺伝性腎疾患であることが明らかになりつつあります。①ご家族にも腎臓の症状がある場合、②比較的若い場合、③原因不明な場合、などの慢性腎臓病患者さんの診断と治療方針策定に特に有効と考えており、実績をあげております。

もちろん、「透析合併症外来」をはじめ、透析に関わる外来・入院診療も充実しております。「透析にならない」「透析導入を先延ばしする」ことが第一義ですが、必要な時には信頼される透析医療への導入と管理が可能なチームとなっております。

Q2 今後の抱負は？

蘇原先生　患者さんに信頼され、かつ、寄り添った診療を進めてまいります。同時に、遺伝子解析や新規治療薬の観点から、患者さんによりよい診断と治療を提供できる新しい「腎臓内科診療体系」の構築を目指して頑張ります。

Q3 患者さんへのメッセージは？

蘇原先生　大学病院であっても敷居が高いということはありませんし、地域の医療機関と当科で併診も可能です。患者さんからもWeb予約がとても簡単にできるようになりました。満足していただける診療を提供いたします。是非、当科への受診やご紹介をご検討ください。

稀少疾患先端医療センター　蘇原 映誠 センター長

●専 門 医：日本内科学会総合内科専門医、日本腎臓学会専門医・指導医、日本透析医学会専門医・指導医
●専門領域：内科、腎臓内科、透析医療、遺伝性腎疾患、高血圧など

Q1 稀少疾患先端医療センターの役割は？

蘇原先生　稀少疾患は、患者数が1万人に5人未満の疾患、と定義されています。しかし、その種類は最低6,000以上と数が多く、全世界で患者数は3億人に上ると推定されています。稀な疾患で、多彩な症状を呈することも多く、診断が遅れたり、診断が難しかったりすることもあります。適切な治療の選択にも高度な知識が必要です。当病院では、稀少疾患の先端医療にあたる専門医師により、領域を超えた連携診療を行っております。当センターの特徴は3つあります。

① 稀少疾患の正式な診断拠点です：国の日本医療研究開発機構における未診断稀少疾患イニシアチブ（IRUD）拠点病院（HP https://plaza.umin.ac.jp/irud/）として、また東京都難病連携拠点病院として、当院遺伝子診療科と連携しながら、稀少疾患の遺伝子診断にあたっています。
② 幅広い専門領域をカバーしています：当センターは小児科、腎臓内科、呼吸器内科、脳神経内科、眼科、耳鼻咽喉科、皮膚科、循環器内科、心臓血管外科、矯正歯科・口腔外科・歯科など、様々な領域の診療科から成り立っており、指定難病や小児慢性特定疾患をはじめとする、いわゆる稀少疾患に幅広く対応しています。
③ 先端的治療を展開しています：標準的な治療にとどまらず、大学における様々な診療科や難病診療部と連動しながら、常に先端的治療への展開を試みています。

これらの特徴を活かし、専門医師による稀少疾患の診断から治療までを展開できる体制を構築しております。

Q2 今後の抱負は？

蘇原先生　私は以前より、腎臓領域の稀少疾患の遺伝子診断に深く関わるともに、臨床と基礎の両面から研究を進めてまいりました。稀少疾患の世界の趨勢を見ると、近年、小児患者領域では遺伝子診断を積極的に使う診療戦略、成人患者領域では我々の予想をはるかに超えて一般疾患に隠れている稀少疾患が注目を集めております。センター長としてはこれらの世界の流れに遅れることなく、むしろ先んじる形で、稀少疾患診療の中心になれるよう努力します。さらに、幅広い専門領域をカバーするためにも、副センター長の小児科 鹿島田健一先生をはじめ、多くの診療科と今まで以上に連携をとりながら、ベストの稀少疾患診療を行えるように頑張ります。

Q3 患者さんへのメッセージは？

蘇原先生　国と都の正式な稀少疾患診断拠点であり、幅広い専門領域と連携して、遺伝子診断も併用しながら診療にあたります。幅広い専門領域をカバーする体制もできており、ぜひ遠慮なく当センターにご連絡いただけましたら幸いです。将来的には、一般疾患に隠れている遺伝性疾患・稀少疾患を遺伝子解析で診断し、診療に活かしていく時代になるよう、稀少疾患診療を発展させたいと考えております。

新任診療科長・部長・センター長メッセージ
新たに着任した診療科長・部長・センター長からの患者さんへのメッセージです。
東京医科歯科大学病院 広報誌「オアシス」19号

小児科　鹿島田 健一 科長

●専 門 医：小児科、内分泌代謝、糖尿病、臨床遺伝
●専門領域：小児科全般、内分泌代謝疾患、遺伝性疾患、移行期医療、小児期がん経験者の長期フォローアップ

Q1 小児科の役割は？

鹿島田先生　東京医科歯科大学病院小児科は血液腫瘍／免疫疾患、膠原病リウマチ疾患、循環器疾患、神経疾患、内分泌・代謝疾患、腎疾患、遺伝性疾患、新生児集中治療など、専門領域の診療に力を入れ、診断や治療に困っていらっしゃる患者さんを数多く診察しています。基礎研究、臨床研究にも力を入れ、明日の子どもの健康と幸せと未来を拓き、患者さん、ご家族のお力になりたいと願っています。

Q2 今後の抱負は？

鹿島田先生　最先端の医療を提供し、希少疾患、難治疾患の治療にあたることはもちろんのこと、難病に苦しむ子どもたちのウェルビーイング（well-being）[身体的・精神的・社会的に良好な状態]を目指し、医療者、医療スタッフによるチーム一丸となって診療をさせていただきます。

Q3 患者さんへのメッセージは？

鹿島田先生　東京医科歯科大学小児科学教室は小児難治疾患の病態解明、責任遺伝子の検査、治療法の開発を共通の目標とし、各専門診療チームによるグループ診療を提供しています。日々臨床・研究を行い、それぞれの専門性を高め、先進的医療を目指しています。外来では各専門グループの診療枠を設け、あらゆる疾患に対応できるようにし、病棟ではお子さまが安心して入院生活を送ることができるように、訪問学級やチャイルド・ライフ・スペシャリストやボランティアによるさまざまなサポートを行っています。お子様の病気で診断や治療に困っていらっしゃる方は、ぜひご相談ください。

臨床腫瘍科　浜本 康夫 科長

●専 門 医：総合内科専門医、がん薬物療法専門医、消化器病専門医
●専門領域：消化器癌化学療法、医療安全、臨床倫理

Q1 臨床腫瘍科の役割は？

浜本先生　臨床腫瘍科では、がん治療における薬物療法を主に担当します。がんに対する薬物療法ですので、扱う薬剤はいわゆる抗がん剤です。抗がん剤には様々な種類があり、殺細胞性、ホルモン療法、分子標的治療、免疫療法など、病気の種類や状態に応じて使い分けます。たとえば手術後に再発予防のために期間を決めて実施することや、病気をコントロールするため定期的にCTなどで効果を評価しながら治療することもあります。臨床腫瘍科には、日本臨床腫瘍学会で認定された複数のがん薬物療法専門医が、安全で効果的な治療を実践しております。また治療に際しては専門の看護師や薬剤師などの多職種で連携し情報共有し対応しますので安心して治療が可能です。

患者さんにはそれぞれ様々なバックグラウンドがあり、治療に対する要望や意向は異なります。私たちは、医学的に正確な治療は当然ですが個々の患者さんの事情や要望に応じた、きめ細やかながん診療を目指しております。

Q2 今後の抱負は？

浜本先生　「がん」という病気に対して診療科が一致団結し、患者さんと家族の方たちと同じ目線で病気に立ち向かっていきたいと考えております。そのためには医師・歯科医師だけではなく多職種と連携しお互いを尊重しあえるチームを形成したいと考えております。チーム医療は、医療者だけではなく患者さんや、家族の方も一丸となるのが理想的です。そのため、病気に対する正しい情報の共有にも尽力したいと思っています。

Q3 患者さんへのメッセージは？

浜本先生　がん診療のスペシャリストとして外来や病棟で誠意のある対応をいたします。必要に応じて他の診療科への架け橋になり、患者さんたちが迷子にならないようにいたします。また市民講座などを通じて、わかりやすく正しい知識を啓発できるような活動もしたいと思います。

食道外科　藤原 尚志 科長

●専 門 医：日本外科学会専門医、日本消化器外科学会指導医、日本食道学会食道外科専門医
●専門領域：食道癌に対する低侵襲手術（ロボット支援を含む胸腔鏡・縦隔鏡手術）、頸部食道癌に対する喉頭温存手術

Q1 食道外科の役割は？

藤原先生　食道外科では、あらゆる食道癌（頸部食道癌、胸部食道癌、食道胃接合部癌）の治療を行っております。外科手術・内視鏡治療を中心に、薬物治療・放射線治療も関係各科と連携しながら担当しております。

当科の手術はロボット支援手術を標準とした胸腔鏡・腹腔鏡手術（傷の小さい手術）などの低侵襲手術が原則であり、縦隔鏡手術・経裂孔的腹腔鏡手術（胸をあけない、肺にやさしい手術）などのさらなる低侵襲手術も導入しております。

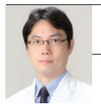
機能温存手術も当科の特色であり、喉頭機能温存（発声・嚥下）や胃機能温存・再建（摂食・逆流防止）が可能な術式を積極的に取り入れております。頸部食道癌手術における喉頭温存、食道胃接合部癌手術における術後の逆流がない再建術式を積極的に実施しています。手術が必要ではない食道表在癌（早期食道癌）に対しては咽頭・喉頭の表在癌（頭頸部表在癌）も含めた包括的・一元的な内視鏡治療を当科で行っています。患者さんの病態と背景を慎重に検討した上で積極的に内視鏡治療を行っております。

Q2 今後の抱負は？

藤原先生　既存の標準治療とともに、将来の展望を見据えて患者さんに恩恵のある新規治療も発展させていきたいと思います。特に患者さんの術後QOL向上に寄与する新規手術の開発に注力したいと思います。

Q3 患者さんへのメッセージは？

藤原先生　食道癌を治すこととQOLを維持することの双方を重視して、食道癌の治療を進めていきたいと思います。手術難易度や併存疾患の観点から他院では実施困難と考えられる手術・治療も実現に向けて全力を尽くします。



難病診療部　岡本 隆一 部長

●専 門 医：消化器病専門医・指導医、消化器内視鏡専門医・指導医、総合内科専門医、IBD指導医、再生医療認定医
●専門領域：炎症性腸疾患、再生医療

Q1 難病診療部の役割は？

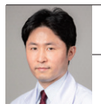
岡本先生　難病診療部は「難病のトータルケア」を提供する診療部門として、対象となる疾患（病気）が異なる４つのセンターを運営しています。「膠原病・リウマチ」「潰瘍性大腸炎・クローン病」「神経難病」「稀少疾患」の４つのセンターそれぞれが、従来の診療科や部門の枠を越えて、複数の診療科と部門が一つのチームとなって診療にあたる体制を整えています。お困りの病気に応じたセンターを受診いただくことで、それぞれの病気のエキスパートと相談しながら、きめ細かい診断と病状に合った治療を受けていただくことができます。

Q2 今後の抱負は？

岡本先生　当院は従来から「難病」とされる病気の診療に積極的に取り組み、新しい治療の開発にも幅広く貢献してきました。当院がこれまで培ってきた経験を生かしながら、よりよい治療を必要とされている患者さんに適切な治療とケアを届けられるよう、スタッフの皆さんと協力して一人一人の患者さんの診療にあたりたいと思います。

Q3 患者さんへのメッセージは？

岡本先生　従来は「難病」とされている病気も、さまざまな新しい治療が受けられるようになっていることが少なくありません。当院難病診療部で最新の治療法に精通したエキスパートにぜひご相談ください。今後も最新の医療技術を取り入れ、患者さんのニーズに応えるために、様々な難病に関する研究と、難病に関わる医療従事者の教育にも力を入れていきます。



肝胆膵外科　赤星 径一 科長

●専 門 医：日本消化器外科学会指導医、日本肝臓学会指導医、日本肝胆膵外科学会高度技能専門医
●専門領域：肝胆膵悪性腫瘍の集学的治療、ロボット支援下肝臓膵臓手術

Q1 肝胆膵外科の方針は？

赤星先生　肝胆膵外科は肝臓、胆嚢、胆管、膵臓、脾臓領域の悪性腫瘍（がん）、炎症性疾患などに関して手術、薬物療法を含めた総合的治療を行う診療科です。切除困難な進行がん治療に取り組む一方で、傷の小さな低侵襲手術（ロボット手術・腹腔鏡手術）を積極的に導入しています。肝癌、膵癌においては手術と薬物療法の組み合わせ治療（コンバージョン治療、ネオアジュバント治療）を行って癌の予後の最大化を目指しています。またロボット手術・腹腔鏡手術に最新の画像解析技術を取り入れて、手術の安全性の向上に最大限尽力しています。以上のように大学病院の特長を活かして、手術・薬物療法・放射線治療・ゲノム医療など様々な先進的な治療手段の長所短所を比較検討して、個々の患者さんにとって最も有効な治療手段が選択できるようサポートしています。

Q2 今後の抱負は？

赤星先生　肝胆膵領域の病気の治療には複雑な手術や集学的治療が必要であり、高度なチーム医療の実践が重要です。外科・内科・放射線科など様々な専門家の力を最大限に引き出して治療に還元するハブとなるべく尽力します。

Q3 患者さんへのメッセージは？

赤星先生　「元気で長生きするためにベストな治療は何か」を第一に考え、患者さんに優しい温かみのある医療が提供できるよう心がけております。肝胆膵領域の病気でお困りの際にはいつでもご相談ください。

息さわやか外来　財津 崇 科長

●専門資格（専門医）：日本口腔衛生学会専門医、
●専門領域：口臭、予防歯科、遠隔診療、公衆衛生、口腔衛生

Q1 息さわやか外来の役割は？

財津先生　息さわやか外来は口臭検査、口臭の診断・治療・予防を行う専門外来です。口臭の主な原因は、口腔疾患や口腔清掃の状態にあります。当外来では、専用の口臭測定機器を用いて、口臭の強さや原因を特定し、患者さんに最適な治療プランを提案します。治療には、カウンセリングや指導も含まれ、全面的にサポートします。当科は、口臭におけるトップレベルの診療成績を誇っています。患者さんの口臭に関するお悩みを、一緒に解決していきたいと考えております。

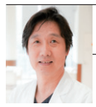
Q2 今後の抱負は？

財津先生　2007年から口臭臨床に従事し、2016年より外来医長、そして2023年からは診療科長を務めております。私の抱負は、先進的な医療技術と優れた臨床実績を背景に、口臭問題に苦しむ患者さんの悩みを解消し、さらにはその予防にも尽力することです。現在はインターネット予約システムの導入やiPadを活用した質問票のデジタル化など、診療プロセスのスムーズ化を図るための新しいシステムの導入にも積極的に取り組んでいます。患者さんが安心して診療を受けられるよう、常に患者さん目線での改善を心掛けて行きたいと思います。

Q3 患者さんへのメッセージは？

財津先生　多くの人が口臭に関して、少なからず関心を持っています。口臭が気なっていると、周りの人と積極的に行動ができなかったり、コミュニケーションがとりにくいと感じたりします。　我々は患者さんが自分の口臭を客観的な数値で示されることや対処法や予防法を知ることにより、より良い社会生活が歩めるように努めています。家族から口臭を指摘された、自分の口臭が気になる、周りの人の態度が気になるなど、口臭のことで不安がある方は、まずは口臭検査を受けてみてください。

新任診療科長・部長・センター長メッセージ
新たに着任した診療科長・部長・センター長からの患者さんへのメッセージです。
東京医科歯科大学病院 広報誌「オアシス」19号



遺伝子診療科　吉田 雅幸 科長

●専 門 医：日本人類遺伝学会認定　臨床遺伝専門医、日本循環器学会認定　循環器専門医、日本老年医学会認定　老年病専門医、日本内科学会認定　総合内科専門医
●専門領域：分子遺伝学、血液生物医学

Q1 遺伝子診療科の役割は？

吉田先生　遺伝子診療科では、患者さん一人ひとりのニーズに合わせた包括的な医療サービスを提供しています。臨床遺伝専門医や認定遺伝カウンセラーが、それぞれの専門性を活かしながら患者さんに寄り添い、ご家族も含めた健康管理を支援します。臨床遺伝専門医は最新の遺伝学的検査や治療に関する知識を活用し、患者さんの遺伝学的情報に基づいた診断および最適な治療法を提案しています。一方、認定遺伝カウンセラーは、患者さんやご家族との信頼関係を築きながら、遺伝的なリスクや検査結果についてわかりやすく説明し、ご家族内のコミュニケーションが円滑に進むようサポートしながら、心理的な負担軽減に努めています。

また、遺伝子診療科では、院内の他の診療科とも緊密な連携を図っています。がんや希少疾患難病の診断など、他の診療科において遺伝学的情報を必要とする場合には、迅速かつ適切に情報提供を行い、共同して診療を行うことによって、患者さんにとって切れ目のない最善の医療を実現しています。

Q2 今後の抱負は？

吉田先生　私の抱負は、患者さん一人ひとりに合わせた最良の医療を提供することです。遺伝子診療科長として、ゲノム科学の進歩を追いながらも、患者さんのニーズと医療倫理に基づいたアプローチを大切にしています。また、私は遺伝医療従事者の育成にも力を入れています。遺伝医療の専門知識や技術の習得だけでなく、生命倫理やコミュニケーションスキルの向上を支援し、すべての医療従事者にとって不可欠となる遺伝医療に関する知識がいち早く習得できるようサポートしようと心がけています。

Q3 患者さんへのメッセージは？

吉田先生　遺伝子診療科では、近年のゲノム解析技術の発展をいち早く取り入れ、先進的な医療体制を構築しています。遺伝学的情報を活用した個別化医療の実現に向け、最新の検査技術や治療法を積極的に導入し、患者さんの健康増進に貢献しています。国内外のゲノム医療・研究者との密接な関係性を築きながら、全エクソーム解析検査や遺伝子パネル解析などの先進的な技術を通常診療に取り入れています。これにより、患者さんに対してより迅速で正確な診断や治療を提供し、疾患の早期発見や予防が可能となっています。また、疾患の遺伝的リスクを評価することで、患者さんとそのご家族に適切な情報を提供し、遺伝的な疾患の予防や管理にも取り組んでいます。

これらの取り組みは、将来のゲノム医療の発展に向けた基盤を築くと同時に、患者さんの健康と福祉を守るための重要な役割を果たしています。私たちは、さらなる技術の進化や医療の発展に対応しながら、患者さん一人ひとりのニーズに応えるために努力を続けていきます。患者さんには、安心して当院の遺伝子診療科を受診していただけるよう、引き続き最善の医療を提供してまいります。

高齢者歯科外来　猪越 正直 科長

●専 門 医：日本老年歯科医学会専門医、日本補綴歯科学会専門医・指導医
●専門領域：有病高齢者の患者さんの歯科治療、被せ物や義歯をはじめとする補綴（ほてつ）歯科処置

Q1 高齢者歯科外来の役割は？

猪越先生　高齢者歯科外来は、全身疾患をお持ちの患者さんの歯科診療を専門としている外来です。全身疾患をお持ちの患者さんの歯科治療を安心・安全に実施するため、各治療台に血圧モニターが設置されており、血圧を計測しながら歯科治療を実施しています。これにより、体調が急変された際にも迅速に対応が可能です。

Q2 今後の抱負は？

猪越先生　日本は超高齢社会となっており、高齢者人口は年々増加しています。高齢者の方は何らかの全身疾患をお持ちの方が多いため、歯科治療の際に特に注意が必要です。これまで長らく高齢者歯科外来にて診療してきた経験を活かして、全身疾患をお持ちの高齢患者さんのお口の健康に貢献できるよう、全力で取り組んでいきたいと考えております。

Q3 患者さんへのメッセージは？

猪越先生　これまで、受け入れる患者さんの全身疾患を限定しておりましたが、今後はより広い範囲の全身疾患を受け入れる体制を整えていく予定です。
皆様のご来院をお待ち申し上げております。

口腔健康管理科　竹内 康雄 科長

●専 門 医：日本歯科専門医機構認定歯周病専門医、日本歯科保存学会認定歯科保存専門医
●専門領域：歯周病学、口腔保健学

Q1 口腔健康管理科の役割は？

竹内先生　口腔健康管理科では、歯系診療部門の入院患者さんに対して、手術後の合併症や口腔トラブルを予防するために必要な口腔衛生指導と専門的な処置を行っています。また、退院後の口腔内の健康維持・改善に向けた指導やセルフケアのサポートにも力を入れています。さらに、各歯科専門外来での治療と併行して、う蝕症や歯周病等のリスクが高いと判断された患者さんの口腔健康管理を行い、QOLの向上を図っています。本大学病院のメリットを活かし、他の歯系診療部門だけでなく医系部門とも連携して、皆様に必要な医療を提供すべく取り組んでいます。

Q2 今後の抱負は？

竹内先生　口腔と全身の健康には密接な関係があり、新たな知見が数多く発表されています。また、口腔ケアに関する検査や診療技術も日々進歩しています。当科では歯科衛生士と歯科医師が連携して患者さんの口腔健康管理を行っていますが、常に良質で最新の医療を提供できるよう、スタッフ全員で研鑽を積んでまいります。

Q3 患者さんへのメッセージは？

竹内先生　ひとりひとりの患者さんのお口や体の状態、生活習慣に合わせたきめ細やかな口腔ケアを提供することをお約束します。